ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	B-1(左)	調査位置				北　緯	36 ° 34 ’ 36.0000 ”
発注機関	宇都宮土木事務所			調査期間	2008-08-04 ～ 2009-02-10	東　経	139 ° 49 ’ 46.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	128.88 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具	
総掘進長	9.10 m								エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1	128.28	0.60	0.60		盛土	黒灰		中位	黒ぼく（シルト）主体、上部礫混じる。	完新世	12/10	1.15	1	2	1	4／30	4							
	127.58	0.70	1.30		シルト質砂 (SM)	暗茶		中位	シルトが全体に混じる。砂は微粒砂。			1.45												
2	126.78	0.80	2.10		砂礫 (GS)	暗茶	中ぐらい		φ5～30mmの亜円礫が主体。マトリックスは粗砂。 1.80mにφ80mmの玉石あり。			2.15	6	5	5	16／30	16							
3	125.08	1.70	3.80		礫混じり粘土 (CH-G)	黄灰		硬い	φ5～20mmの亜円礫を混じる。 3.0m付近砂分やや多い。 所々にφ40～50mmの礫点在。			2.45												
												3.15	5	3	6	14／30	14							
4												3.45												
												4.15	7	8	18	33／30	33							12/08
5												4.45												
												5.15	16	12	13	41／30	41							
6	122.38	2.70	6.50		粘土混じり砂礫 (GS-C)	黄灰	密な		φ5～25mmの亜円礫主体。 マトリックスは細砂～粘土。 4.5m付近φ50～60mm礫点在。 6.35～6.50m間に玉石あり。	更新世		5.45												
												6.15	8	5	20	33／30	33							
7					凝灰岩 (Tf)	褐灰～青灰	密な		層理付近は、風化が進み粘土化している。 8.0m～9.0m間、やや硬くなる。 コア採取率20%程度。			6.45												
												7.05	18	32		50／20	>50							
8												7.25												
												8.05	50			50／10	>50							12/09
9	119.78	2.60	9.10									8.15												
												9.05	50／5			50／5	>50							12/10
												9.10												